

大腸がんについて

消化器内科

大腸がんとは、小腸末端につながる盲腸から結腸、直腸そして肛門までの大腸粘膜上皮から発生するがんで、生じた部位によって結腸がん、直腸がんと呼ばれています。近年、わが国でも大腸がんが急速に増加しています。厚生労働省発表の「人口動態統計の概況」によると、平成21年1年間の死亡数のうちトップは悪性新生物(いわゆる「がん」)で、死亡者数34万4105人の総死亡数の30.1%を占めています。このうち大腸がん(結腸がんと直腸S状結腸移行部および直腸がんの合計)は4万2434人で、①気管・気管支および肺②胃に次いで3番目に多い結果となっています。また、がんで死亡した人数を性別に見ると、男性は20万6352人で全死因の33.9%、女性は13万7753人で25.9%となっており、がんによる死亡は男性に多い傾向にあります。その原因には、高脂肪食、低繊維食の欧米型食生活が影響していることが指摘されていますが、その他飲酒、ストレス、運動不足なども関係していると考えられています。

国吉宣俊 さん
国吉病院 院長



食、低繊維食の欧米型食生活が影響していることが指摘されていますが、その他飲酒、ストレス、運動不足なども関係していると考えられています。